

10 介護老人福祉施設における高齢者の口腔内と義歯使用状況の調査から学ば—ことばクリニックの事例より—

○上杉 諒, 市川 匠, 宇賀神雪乃, 榎並拓也, 岡部竜雄, 町屋 祐, 横田憲幸
明倫短期大学 歯科技工士学科専攻科 生体技工専攻2年

keywords : 介護老人福祉施設, 義歯使用状況の調査, コミュニケーション, 笑顔

はじめに

義歯を製作する上で、介護老人福祉施設の要介護高齢者（以下、利用者とする）がどのように義歯を使用しているかを理解することは重要であると考え、そこで今回、歯科技工士の立場から、義歯の重要性について再確認することを目的に、五泉市にある「うずらはし」の施設見学、利用者の義歯および口腔内状況について調査を実施したので、その内容をまとめた。

調査内容と結果

平成22年11月17日に、専攻科1年4名、2年7名は、教職員4名の指導のもと、調査を実施した。施設職員の方から施設全体の役割について説明を受けた後に、今回調査を行った特別養護老人ホームを見学した。ここでは、全室個室で3ユニットに分かれており、それぞれのユニットに共同生活室が設けられていることを知った。

専攻科生11名が、1・2年、2人1組または3人1組で3ユニットに分かれ、利用者29名のうち話を聞くことができた9名に聞き取り調査を実施した。義歯の有無と使用状況、口腔内の状態、義歯の観察、食事の内容を利用者および職員の方から聞いた。実際に使用している義歯から、床の形態や人工歯の咬耗状態、クラスプの形態などを観察し、汚れが目立つ義歯は利用者の了解のもと、超音波洗浄器を用いて洗浄した。また、利用者の食事の様子も見学し、要介護度の違いによる調理方法の違いも知ることができた。通常食、ミキサー食またはムース食に調理したものをそれぞれの利用者に提供していた。

今回の調査は初めて経験することが多かったため、話しかけるタイミングや言葉選びが難しく苦労したが、初対面の利用者により良いコミュニケーションを図るためには自ら笑顔で接することが非常に大切であると実感できた（図1）。また、職員の介護士、栄養士、看護師の方に義歯への関心をより高めてもらう良い機会になったと感じた。

まとめ

今回の見学で、義歯の有無により、表情や若々しさ、食事では調理方法、食べ方、食べ終わるのにかかる時間等で差が認められた。

見学を終えて、改めて義歯の役割について調べ直した。義歯を装用することによって、コミュニケーション能力の向上、残存歯質の保護、咬むことによる脳の活性化や、口腔機能を使い栄養をとることで痴呆を改善し、運動能力の向上が期待できることを理解した。そのため、義歯が重要であると再確認できた。



図1. 共同生活室での調査